

垣内武大神社は、山陽電鉄網干駅から北へ約 700 メートル、集落の真ん中ほどに鎮座しています。鳥居をくぐるとすぐ右手に由緒記があり、ご祭神は、彦狭知命（ひこさしのりのみこと）・事代主命（ことしろぬしのみこと）・倉稻魂命（うかのみたまのみこと）の三神で、木工守護・商売繁盛・産業隆昌・家内安全の御神徳をいただけるとされています。垣内村発生とともに産土神として祭られ、村人たちの厚い崇敬を受け、郷土垣内の発展と平和の守護神として維持されてきたと記されています。

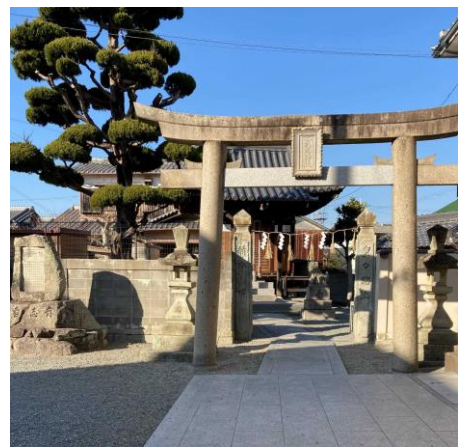
『網干町史』によると、武大神社は、元は祇園社と称しており、^{すきのおのみこと}素戔鳴尊を祭神として祀っていたようです。また、武大という名前は^{ごすてんのう}牛頭天王からきており、牛頭天王の別名が武大神だからだと伝わっています。牛頭天王に対する神仏習合の信仰を祇園信仰というそうで、中世に日本全国に広まっていたそうです。創建は 1620 年頃との説もありますが、古く集落発生と共にこの地にお祀りされたと推定されます。境内に入ってすぐ右手の銀杏の古株がこの神社の古さを物語っているようです。

境内をさらに進むと、お百度石、手水鉢があり、天の邪鬼が四隅で手水鉢を支えています。その奥には力石が四つあり、力石を定義づけることは容易ではありませんが、江戸時代に若者が力試しにかかえあげたり、豊凶の占いにも用いられたもので、神社境内・会所・村境などに置かれています。

例祭日は、4月の第2日曜日です。数え年 42 歳の厄年（初老）の男性が餅を投げ、厄を落とします。その日は初老の人と一緒に、還暦、数え年 17 歳（元服）の男性も神社に参拝します。元服の青年がこのような行事に参加するのは、垣内だけの風習ということです。



手水鉢を支える天邪鬼



垣内武大神社全景